

第4A (小) 分科会 —組織・運営に関する課題—

提案主題 教職員アンケートを活用した教職員の意識改革と学校運営体制の改善
—協働性の質の向上をめざす教頭の関与性についての研究—

司会者	別府市立春木川小学校	梅田久輝
提言者	別府市立上人小学校	佐藤裕一
助言者	国東市立武蔵中学校校長	渡邊和彦
記録者	別府市立緑丘小学校	河野一也

1 協議の柱

- ・教頭として効率的な学校運営に向け、どのようにかかわっていけばよいだろうか。

2 協議の実際

(1) 発表に対するの質問事項とその回答

質問1：〈分掌会議・運営委員会・職員会議は毎週定例化していますか？そしてそれらの会議をおこなう時間帯は？特に問題等なくスムーズに行えていますか？〉

回答：（運営委員会・職員会議は定例化しているが、分掌会議は必要に応じておこなっているので、1学期はほぼ毎週定例化していたが、2学期以後は少なくなっていく可能性もある。時間帯は運営委員会は月曜日の16時から、分掌会議は金曜日の16時から、職員会議は水曜日の研修の前に30分以内でおこなっている。職員会議は運営委員会で協議されたものを連絡するだけなので、スムーズに行われている。）

質問2：〈中学教員から小学校の教頭になって、どんなところにとまどったか？〉

回答：自分の学級のことは責任をもってやるが、組織的にやらないところがある。中学校の方が組織的な取り組みができています。また小学校の教員は一人で問題をかかえこみすぎると思う。

(2) グループ協議の発表

- ・今後アンケートを取り入れていきたいが、教職員に本音を言ってもらうために、普段からの信頼関係づくりも大切である。
- ・日々の忙しい中で、教頭として情報収集をしたり会議の時間をつくるのが大切である。
- ・小学校では組織が成立しにくいので、学校全体を見れる人・全校児童にかかわれる人をつくるのも1つの方法である。

3 指導助言

- 教職員へのアンケートを利用すれば、それぞれの思いがわかり、一人ひとりの教職員の参画意識が高まり、主体的になっていくので、大変有効な手段である。
- 教頭として、自分のイズムを教職員に伝えていくことが大切である。（校長と教頭が同じビジョン・価値観をもっていたら、校長だけでなく教頭が通信をだしてもよいのではないか。）
- 校長がキャッチャーでサインをだし、教頭がそのサインに基づいて投球し、打たれたら守っている教職員みんなでバックアップしていくような組織が大切である。
- 学校運営に参画していくことの喜びを、教職員に伝えていくことが教頭としての大切な役割である。